

研究・調査報告書

報告書番号	担当
367	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking patterns and health care utilization in a managed care organization. 飲酒パターンと管理医療プログラム (健康保険) の利用度	
執筆者	
Zarkin GA, Bray JW, Babor TF, Higgins-Biddle JC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Health Serv Res. 2004 Jun;39(3):553-70.	
キーワード	
多施設共同研究, 飲酒, 症例対照研究, マネージド・ケア計画, 受診状況	
要 旨	
<p>目的： 現在の飲酒状況と管理医療プログラム (健康保険) の 2 年間にわたる医療費との関連を、飲酒に関する情報が得られている対象者において検討した。</p> <p>方法： 1998 年 3 月から 12 月に西部の大規模管理医療プログラム組織に属する 3 つの総合診療施設で、成人患者全員に対して、最初に施設を訪れた際に健康と生活習慣に関する調査を行った。NIAAA (国立アルコール依存症・アルコール乱用研究所) のガイドラインの中程度飲酒以上であった対象者は、より詳細な、AUDIT (アルコール関連障害弁別テスト) を用いたアルコールスクリーニングを受けた。アルコールスクリーニング以前の 2 年間での医療利用状況が、1 回あるいは 2 回のスクリーニングを受けた被験者に連結された。飲酒量・飲酒頻度と AUDIT に基づいた飲酒パターンを用いて、加療日数と飲酒パターンとの関連を 2 項モデルにより検討した。分析に際しては、人口統計学的特性およびその他の関連要因を補正した。</p> <p>結果： 飲酒量・頻度と AUDIT による飲酒パターンのいずれを用いても、現在飲酒者は、禁酒者に比べて医療利用度が低かった。この関連は、すべてが有意ではないものの、多量飲酒者においても認められた。いくつかの例外を除いて、全体の傾向としては、多くの飲酒パターンが低い医療依存度と関連していた。</p> <p>結論： 本研究において、飲酒が医療依存度を増大させるという結果は得られず、飲酒習慣のあるものは、どのくらい飲むかにかかわらず、医療利用度が低いことが示された。</p>	